

変わる日本の「暮らし」と「まち」

マンモス団地誕生の地で
命名50周年を祝うイベントが開催

高島平50周年
記念イベント

(2019年・平成31年)

阿部民子

text by Ranko Abe



illustration: Shigeyuki Sakata

日本経済が飛躍的な発展を遂げた高度成長期。都市部へ流入する多くの人々の住宅不足を解消するため、各地に大規模な住宅地が次々と造成された。そのなかの代表が、東京都板橋区北部に位置する高島平だ。

この地は、江戸時代には徳丸ヶ原と呼ばれる幕府の鷹狩場だった。昭和30年頃までは東京の約7割の米を供給するともいわれた徳丸田んぼ・赤塚田んぼとして名を馳せた。その後、昭和40年頃から日本住宅公団（現UR）が土地区画整

多彩な催しで50歳を祝福

理事業を開始。江戸後期に日本初の洋式砲術訓練を行った砲術家の高島秋帆にちなんで、1969年3月1日に高島平と命名。広大な地に、新たなまちが出現した。

命名から50年を経た今年3月1

日から3日間。高島平各地で「HAPPY BIRTHDAY（高島平）」と称した記念イベントが開催された。1日夜の「みんなで乾杯！」を皮切りに、記念シンポジウムや普段は入れない板橋市場



50周年記念イベントが開催された高島平団地

ちづくりを推進する組織で、地域の見守りや防災、プロムナードの活用などさまざまなプロジェクトを進めています。今回はそこが運営事務局となり、高島平50周年を機により多くの人々を巻き込み、

まちのこれまでとこれからを考えるきっかけになればと、イベントを企画しました」

プロジェクトの1つとして披露されたのが、「高島平ヘリテージ50」だ。これは、中島准教授の研究室と地域住民が、高島平の自然や遺跡、建築物など、50年の間に蓄積されてきたまちの資産50個を選定し、1枚のマップにまとめたもの。「自分の住むまちを知って愛着をもち、能動的に関わって将来に活かしてほしい」との願いが込められたマップは、すぐになくなるほどの人気を集めた。

地域医療福祉拠点化の 取り組みも続々

1丁目から9丁目まである高島平。なかでも大きな存在が、2丁目、3丁目に広がる高島平団地だ。賃貸・分譲合わせて64棟、総戸数1万170戸。1972年から73年

に供給され、当時は東洋一のマンモス団地と謳われた。URの団地マネージャー三好朗は説明する。

「高島平団地の賃貸棟は全棟が高層棟でエレベーターが設置されています。しかも東京23区内で駅前立地、公共公益施設も集積していて生活も便利。団地内はとても賑わいがあり、入居をご希望される方も多くいらっしゃいます」

今回のイベントでURは「UR高島平団地ツアー スタンプラリー」を企画した。「団地にお住まいの方と外の両方に、いまど昔の団地の魅力を再認識していただければ」と意図を語る。

そこで、まずは体験を、と団地ツアーに参加してみた。スタート地点の吉番街商店街では写真展を開催中。建築途中の団地や祭りの人で埋め尽くされた広場など、興味深い写真が目白押しだ。5歳の息子さんと見に来ていた武田信さんは「親の代から50年近く住んでいます。行政の出先機関が多いし、都営地下鉄も最初は巣鴨までだったのが、大手町や目黒方面までつながって便利。とても住みやすいですね」と話してくれた。

などの見学ツアー、マルシェなど、多彩な催しで賑わった。

高島平50周年記念事業実行委員会委員長であり、UDCTak（アーバンデザインセンター高島平）ディレクターを務める東京大学の

子どもが遊ぶ「お山の広場」や買い物客で賑わう中央商店街を横目に見ながら、次の「さわやか花壇」へ。ここはURが整備し、団地自治会が運営する共同花壇だ。

ちょうど花の手入れをしていた春日山ミツさんにお話を伺った。「4年前に始まった頃から参加していますが、いろいろな方とお話

してできるし、外に出る機会になります。ここでお友達になって、みんなでお花を見に行ったり、楽しいですよ。これから、お花がきれいに咲くのも楽しみね」

3番目のポイントは、無印良品とコラボレーションした「MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト」のモデルルームだ。

「かわしすぎず、つくりすぎない」というコンセプトでリノベーションされた部屋に、同じ団地に住むという女性は「どう変わったのか見に来たけど、使いやすいそうね」と興味津々の様子だ。

ゴールは、おしゃれに改装された集会所。途中で出会った、2歳と5歳の女の子を連れだ若いお母さんは「公園や児童館も近いし、道路が広がってベビーカーも押しや

すい。お友達もいて、子育てしやすいですよ」と話してくれた。

今回巡った場所以外にも、高島平団地では、さまざまな取り組みが行われている。たとえば、板橋区医師会運営の在宅医療センターを団地内に誘致したり、サービス付き高齢者向け住宅や健康寿命サポート住宅の供給、生活支援アドバイザーによる電話での見守りなど、高齢者向けのサポートも手厚い。なかでも特徴的なのが、「高島平ココからステーション」だ。

東京都健康長寿医療センターの運営で、保健師や心理士のほか、月曜日は医師による医療・保健相談も。イベント開催日は会場が満員になるほど人気だという。「このあたりに住んでいる方はコミュニティに対する意識が高く、地域活動が非常に活発。ポテンシャルの高さを感じています」と三好。これ

から先の50年に向けて、高島平の新しい1年が始まった。

街に、ルネッサンス

UR 都市機構

一日も早い東北の復興へ 全力で取り組んでいます

【企画制作】新潮社